

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年2月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 笹貫の家
所在地	鹿児島県鹿児島市小松原一丁目1番2号 電話 099 - 268 - 2627
自己評価作成日	平成31年1月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの理念である『あなたが今できることを大切に』『あなたの想いを大切に』を根本として、利用者様お一人おひとりを中心とした、アットホームな環境・雰囲気の中で利用者様が日々を穏やかに過ごしていただけるように支援しています。宇宿地区の中にあるグループホームで、ホームすぐ裏を市電が通っていて最寄り電停も徒歩3分。国道側にはバス停もあり、市電乗り継ぎでJR宇宿駅も最寄りにあり、公共交通機関にも恵まれています。定期的に利用者様やご家族様・職員が一緒になり、近くの大型ショッピングセンターやレストラン等へ外出する機会も計画し、利用者様やご家族様にとって楽しみの一つとなっています。『いつまでも美味しく食事が摂れて』の理念の通り、食べられることを暮らしの中で大切なことの一つと捉えており、従事する栄養士が考案した献立内容で、栄養バランスを考えた食事となっており、おいしく食事等できるように、協力歯科医院の口腔管理を中心とした、口腔ケアの実践も日々行っております。小松原1丁目町内会に加入しており、町内会主催の夏祭りや、東谷山校区の運動会、秋に企画実施している、町内会に加入している、他の複数の介護保険事業所との合同で行う「小松原1丁目交流会」を行い参加する等、地域に根ざした交流や取り組みも盛んに行っています。H30.10月から当法人で訪問看護ステーションが始まり、利用者様の日常の健康管理にも配慮して、必要な医療を安心して受けられるように支援しています。『笑顔の絶えないグループホームに』を一番の目標として、利用される皆様が、日々の暮らしを笑顔で安心穏やかに過ごしていただけるように、ご家族様のご協力も頂きながら、目の前の利用者お一人おひとりを大切に、心から寄り添えるようなケアを、職員全員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、宇宿地区の利便性の高い地域にあり、商店街や市電・バス停に近く、日常の外出で地域の人々とふれあいながら、挨拶や会話を交わし買い物を楽しめる環境である。
- ・かかりつけ医や協力医療機関と連携を取りながら、職員看護師による健康管理や訪問看護ステーションとの連携も図り、緊急時の対応などにも適切な医療を受けられるよう支援している。
- ・自治会に加入し、夏祭りの「ひよっとこ踊り」や運動会など、地域の行事に参加したり、防犯パトロール活動にも参加している。事業所の避難訓練には、運営推進会議参加者や地域の人々と一緒に実施している。
- ・職員は利用者一人ひとりが張り合いや喜びに繋げるように、家族を交えてのレストランでの外食などを支援している。
- ・職員間のコミュニケーションも良く、自らの資質向上に向けて取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に、勤務者全員で理念の確認と唱和を実施することで理念を意識しケアの実践につなげている。また毎月のミーティングにおいても、理念を根本としたチームケアであることを全員で再確認し、日々のケアの実践につなげられるよう心がけている。	理念は事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載している。理念を基に目標を立て、振りかえりをしている。朝のミーティング後、理念を唱和している。職員会議でも話し合い、常に立ち戻り意識を高めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会をはじめ、地域主催の夏祭りや運動会等の行事を、回覧板や運営推進会議で情報を得て参加し、利用者が地域の一員となれるように支援している。また地域交流を深められるよう、町内会にも加入し町内会が行う夜間の防犯パトロールにも参加して地域の方々との交流を図れている。	町内会に加入し、回覧板等で地域と情報を交換している。夏祭りや運動会・清掃活動などの地域行事、防犯パトロールにも参加している。幼稚園との交流、高校生の体験学習の受け入れなど日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	定期的な運営推進会議を中心に、町内会会長や民生委員の方に、当事業所の取り組みや運営状況の中で、認知症の人の理解や支援方法を発信し、時には認知症関連の勉強会も実施している。また当事業所が行う慰問交流会に地域の方にもご案内し、利用者との交流を図ることで認知症の人の理解や支援方法を発信できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一年度間で6回開催の運営推進会議に地域の方(町内会会長・民生委員)や家族様、地域包括支援センター職員様に参加いただき、当GHの運営状況や取り組みを話し合い、会議で頂いたご意見や助言をサービス向上につなげられるような運営推進会議を開催できている。	会議は定期的に行っている。事業所の状況やヒヤリハット・外部評価の結果報告などを行い、参加者からも多くの助言や提案がある。事業所への理解を深め、情報発信の場ともなっている。そこでの意見を職員で話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	鹿児島市谷山福祉事務所の地区担当者と日頃から連絡を取りあい、時に介護保険課担当者とも連絡し合い、利用者の日常の様子や困りごと等の相談をさせていただき、助言や協力を得られるように努めている。	市担当者とは、窓口に出向いたり、電話で事業所の実情や取り組みを伝え連携を深めている。毎年介護相談員を受け入れている。運営推進会議を通して協力関係もできている。福祉課の担当者とも密に連絡を取っている。市主催の研修会やグループホーム協議会の研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の職員ミーティングにおいて、身体拘束に関連した事項や日頃のケアの中で起こりうる身体拘束について等を確認しあい、「身体拘束について」をテーマとした勉強会を行うことで、身体拘束が及ぼす弊害や具体的な禁止対象の行為を正しく理解できるよう努めている。各階の職員ルームには身体拘束についての掲示物を掲示し、日常的に身体拘束について、職員全員が周知と意識づけを行っている。他、別に「身体拘束廃止」関連のファイルを作成し、定期回覧と周知理解を促している。	身体拘束廃止委員会が中心になってマニュアルに沿って毎月職員ミーティングで勉強会を実施し、職員の共通認識を図っている。言葉による拘束についても日々確認し配慮している。日中の玄関の施錠はせず、外出しそうな様子を察知したら、見守りや同行など職員間の連携で安全な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎月の職員ミーティングにおいて、高齢者虐待について話し合い学ぶ機会を設け、高齢者虐待について把握理解している。また各階の職員ルームに虐待に関しての掲示物を掲示して意識づけており、虐待関連のファイルも作成し回覧周知することで、高齢者虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>日常生活自立支援事業や成年後見制度について、定期的に内部研修を行っている。現在は上記該当される利用者はいないが、日頃から学びや研鑽を深め今後において活用できるような支援をしている。他同法人の居宅介護支援事業所の担当者が成年後見制度に精通しており、ケースによっては相談することも検討している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時の説明は、懇切丁寧を根本として、利用者や家族の不安や疑問、ニーズを細かに尋ね把握し、理解同意と納得される説明に努めている。また改定等においては、毎月のお便りを送付する際に別紙でのご案内や、運営推進会議や家族会議にて、ご説明し理解と同意を得ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から利用者や家族より、相談や意見をこちらからお尋ねして、良質なコミュニケーションを図り、気兼ねなく話せる関係性構築に努めている。他、運営推進会議を活用してご意見やご要望をいただき、職員間で協議した上で運営に反映できるよう努めている。	利用者からは日々の生活の中で意見や要望を聞いて対応している。市相談員の助言も参考にしている。家族からは面会時や近況報告を兼ねた電話連絡時・運営推進会議等が意見を聞く良い機会となっている。出された意見や要望を職員で話し合い運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は月々のミーティングやカンファレンスにおいて、運営に関する職員の意見や要望・提案を聞き、それを管理者は代表者へ相談報告できるよう努めている。	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図り、カンファレンスやミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、仕事のやりがいや向上心を持って働けるような職場環境の整備等に努めている。今年10月より福利厚生の一環として「スカフェ」という職員対象の喫茶企画を行っている。またスキルアップの為に研修案内(法人内・外部)や、資格取得の為に支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、管理者や各職員のケアの実際や力量を把握し、定期的な法人内部のテーマに沿った研修案内を提案し、外部主催の研修においても定期的に案内をし、職員各位のスキルアップにつなげられるような枠組み作りを実践している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎月の系列GHの管理者会議を行い、管理者は他管理者や関係者との情報交換や交流できる機会を得ている。また系列GHや関係同業者と、地域の催しに参加することで、地域交流をはじめ職員間の交流やネットワーク作りをし、サービスの質向上に取り組んでいる。他、今年7月より谷山地区GH連絡会を発足し地区内のGH事業所が集まり毎回テーマを決めて意見交換する機会に参加し質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者がサービス利用開始の段階で、本人の困りごとや不安なこと、ご要望を傾聴してアセスメントし、本人の安心とこれからの過ごし方について希望が持てるような関係づくりと支援に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者様がサービスを開始する段階で、家族様にとって、例えば経済的な面であったり当ホームでの介護に関する困りごとや不安なこと、ご要望を傾聴しながら安心してサービスが受けられるような初期の関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人様と家族様がサービスを開始する段階で、その時に必要としている支援を見極め、フロアの全職員での情報共有と把握を行い、受診支援や他の社会資源サービスも含めた柔軟な対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人にとって、家庭的で温かく居心地良い環境となれるよう配慮し、本人の持てる残存機能や、今まで培われた力を見極めながら、暮らしを共にする者同士ということを職員は意識し、家庭的な環境の下で暮らせる関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当グループホームの理念でもある、「家族の想いを大切」にして、家族の想いや意向を尊重し、本人と家族の絆を大切にしながら、寄り添い支えられるような関係を築けるように全職員が自覚して支援できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとっての、馴染みある人や場所をご家族にお尋ねし、本人や家族と情報共有しながら、馴染みの人や場所との関係が途切れないように家族にも協力を頂きながらの支援に努めている。(例)行きつけの理容店や住んでいた地域への外出支援。お墓参り等。	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所を把握して、地域行事に出かけたり、手紙や電話の取次ぎなども行って、継続的關係が途切れないよう働きかけている。家族の協力で外出や外食・墓参・理美容院利用などの際にも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関係性を考慮した席の配置や良好な関係が築ける配慮を行い、トラブルや孤立が発生すること無く、相互に支えあいができるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	諸般の事情により退去された方々や家族様とは、これまで通りに関係性を大切にし、退去された方々の近況等をお聞きしており、相談や支援に努められるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らし方の希望や意向を伝えられる方には、傾聴して把握に努め、意思等を伝えられない方には、ご家族様にご協力をいただいで、暮らしの希望や意向の把握に努めている。なるべく本人本位に検討できるような支援作りをしている。	日々の関わりの中で、個々人とのコミュニケーションを図り、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、介護相談員の助言や利用者の思いを家族とも相談し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様及びご家族様に今までの過ごし方や生活歴を教えていただき、これまでの生活歴やご自宅等での馴染みある暮らしや生活環境を理解把握し、生活に反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のケアカンファレンスや臨時のケアカンファレンスをユニット毎に開催し、健康状態も含めた、お一人おひとりの過ごし方や心身状況の把握に努め取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議時に、本人がより良く暮らせる為の現在の困りごとやニーズを含めた内容を話し合い、暮らしに対してのご意見の反映や月々のカンファレンスで職員からの意見や提案も含めてチームでの介護計画の作成を実践している。</p>	<p>面会時などに本人や家族の意向を確認している。月々のカンファレンスや主治医の意見も踏まえた担当者会議を実施し、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別のケアケース記録や健康状態を把握するバイタル表を作成したり、カンファレンスシートに担当者が日ごろの気づきを記載して情報共有を行い、ケアの実践や介護計画の見直し等に活かされるよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>日常的に既存のサービスに捉われないことなく、本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに柔軟な対応をしており、ニーズにあったご提案やご相談を伺い、事業所の多機能化に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>定期的に行っている公共の場所やお店等への外出レク等の支援を行い、地域資源を活用した取り組みをしている。また近隣の他法人のケアハウスと協働での交流会を、地域住民の方々も交えて開催し、暮らしを楽しめる取り組み支援を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医を本人や家族の希望に配慮し大切にしながら、受診支援ができることで、本人や家族にとって適切な医療を受けられ、健康管理に努めている。また、かかりつけ医との関係もこまめに連携しながら、その人にとっての必要な医療や心身状況の相談等できるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医は、本人及び家族等の希望を大切に受診を支援している。協力医には職員が同行している。歯科は通院や往診で対応し、眼科・皮膚科は職員対応で、他科受診は家族同行である。緊急時の対応は、かかりつけ医と協力医療機関と連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>当事業所に勤務する准看護師資格のある職員や、毎週1度訪問する法人の訪問看護師に、日常の関わりで得た情報や気づき、心身状態を相談して、各利用者が適切にかかりつけ医の受診や看護を受けられるように支援できている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院が発生した際は、安心して治療ができるようホームでの介護サマリ等の情報提供を行い、入院の経過や退院に向けてのカンファレンスを設けて参加させていただき、家族も含めて病院関係者との連携や情報交換相談等に努め、なるべく早期の退院となれるような関係づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化及び終末期、看取りについての指針の整備を行い、書面にて家族に説明と定時を行っている。今後に重度化や終末期、看取り期に該当される方には、あらためて家族と話し合い看取り移行できるような支援を検討している。職印にも定期的なミーティングやカンファレンスで重度化や終末期についての説明と理解を得られるよう努め、終末期や看取り期の勉強会を開催できるように努めている。</p>	<p>契約時に重度化や終末期、看取りケアに伴う対応の指針を説明し、同意書を貰っている。状況変化に伴い本人や家族の意向を随時確認し、医師を交えて話し合い、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な消防避難訓練時に、心肺蘇生法や急変時の対応についての指導を受けて、意識づけを行っている。市の消防局が主催する救急救命講習に少人数単位で参加し、急変時の対応について学んでいる。また訪問看護職員や病院関係者とも連携しながら急変時の対応についての指導を頂き、実践力を身に付けられるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な火災や災害避難訓練を実施し、立会いの消防署員に避難方法や災害について指導をもらい、万が一の非常災害時において全職員が避難できる方法を見に付けられるよう努めている。運営推進会議で、地域住民の方々の協力が得られるように働きかけ依頼し、協力体制を築けるように努めている。避難先についても随時検討協議している。</p>	<p>年2回消防署の指導のもと、昼夜想定避難訓練を実施している。スプリンクラーや緊急通報装置も設置している。運営推進会議参加者も一緒に訓練に参加している。地域との協力体制もできている。水や米・缶詰などの備蓄もある。非常時対策用の器具も備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりを大切に尊重した、心ある言葉かけを、常日頃から職員に指導し意識づけを行い、お一人おひとりの気づきを大切に言葉かけと配慮ある対応ができるように支援し努めている。	一人ひとりの尊厳を大切に馴れ合いにならず、言葉かけや支援に配慮し、やさしく対応している。マニュアルに沿って権利擁護や接遇についての研修会を行い、排泄や入浴などでは羞恥心に対する配慮を行い、名前は「さん」付けで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に寄り添い関わる中で、日常生活上での希望を汲み取り、ご本人が自己決定できるような働きかけを実践できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方を、その日やその時の各利用者様の状況に合わせて、ご本人のペースで希望にそって支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	各利用者様の身だしなみや、お洒落を各職員が理解し、好む色や酒類の衣類や装飾品等を身だしなみとして支援している。訪問カット日は、どのようにカットしてほしいかをご本人に尋ねカットやセットできるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事することが一番の楽しみであることを理解し、職員と一緒に食事準備や食事をする、片付けの一部を共に行えるように努めている。また食事が美味しく楽しめるような雰囲気作りや、それぞれの利用者に合わせて食事の支援に努めている。	旬の食材で利用者の希望に添った献立で、食事形態も工夫している。利用者は野菜を切ったり、味見など職員と一緒にしたりもする。誕生会や季節の行事食・弁当持参での花見・外食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個別の食事量や水分摂取量がわかる表を作成し、摂取量の把握や状態、習慣に応じた支援ができるよう努めている。利用者様が扱いやすい食器や食事用品を準備して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず個別に口腔ケアを本人の心身状況に合わせて、口腔内の清潔保持に努めている。協力歯科医院に口腔内の管理を定期的に行い、口腔ケアについての重要性や指導をもらい、校区ケアの大切さを全職員が理解して実践できるように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄確認表を作成し、排泄パターンや排泄習慣を把握理解し、トイレでの排泄ができて不快な気持ちにさせないような自立に向けた支援を行っている。	排泄のリズムを把握し、必要に応じての声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。ほとんどの利用者がリハビリパンツである。利用者の意思を大切に個々に合った排泄用品で対応している。オムツから改善できた事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について正しく理解し、食物繊維を多く含む飲食物の工夫や、毎日の体操を中心とした身体を動かすことの取り組みをして、個々に応じた便秘予防に努め取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2～3日の入浴支援を実施している。また本人のその日の体調把握と入浴できるかの見極め、ご希望を把握しながら入浴やシャワー浴をしていただき、入浴剤を使用したり、季節によっては柑橘類を使用し、入浴が楽しみとなれるような工夫に取り組んでの支援を心がけている。また個々に応じた湯温や入浴中の時間を把握して、入浴が生活の上で楽しみの一つとなれるよう支援している。	入浴は基本的に週3回、午前中であるが、個々人の体調や希望で、柔軟に対応している。脱衣所の温度管理にも配慮し、好みの入浴剤も使用し、入浴を楽しめるように支援している。入浴を拒む利用者にも声かけなど職員間で連携して入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのこれまでの生活習慣を把握し、短時間の昼寝の推奨や、天気の良い日は日光浴をしていただいたり、外の散歩にお連れしている。夜間の安眠につながるように、就寝前のホットミルク等の提供をして支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医等に処方された内服薬は、職員は症状に合わせた薬の目的や用法用量、副作用を理解し、服薬支援することでの症状の変化の確認を情報共有しながら努めている。不明点は薬局に問い合わせ、随時相談や質問をして把握理解できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や好みを随時確認しながら、その人の持てる力を把握した上での役割を各利用者に担っていただき、役割があることで生き生きとした姿で過ごすことができるよう努めている。機会を作って出かけたり、個別的に近隣のお店で買い物もできるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの希望を抽出できるよう働きかけ、出かけてみたい所に出かけられるよう、家族様にも協力をいただきながらの支援に努めている。また定期的に全員や個別での外出する気化器を設け、地域資源を活用した外出支援に取り組んでいる。	天候や体調を観察して、その日の外出希望を聞き散歩などを含め短時間でも戸外に外出できるように支援している。年間計画での花見など普段行けない遠方にも出かけている。同法人のリフト車で家族参加で出かけている。家族の協力で外泊や外出・外食・墓参などにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことでの安心感や自尊心に対して職員は理解配慮し、買い物外出時等では、本人がお金を使えるように支援している。個々の預かり金(お小遣い等)を管理し、出納帳を作成して金銭管理をしている。中にはご自分でお金を持っている方もおり、家族に同意していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	日常のご本人が電話を希望される時は、電話連絡できるよう随時支援している。また手紙のやり取りの支援もし、年末には年賀状を書いたのやり取りをしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快に感じないような環境づくりに努め、室温や明度等の環境にも過ごしやすい適度な調整を随時こまめに行っている。また季節がわかる壁面作りや生活が楽しめるようなレイアウトを、利用者様と職員と一緒に作成して取り組んでいる。	共用の空間は広々として明るい。採光や温度・湿度に配慮し清潔である。アロマエキスを使い、殺菌にも配慮している。壁面には利用者の作品や写真が貼布してあり、季節感を大事にした花や飾りつけをしている。好きな場所でのソファで居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を設置し、利用者同士で過ごしたり、一人になれるような配慮ある環境整備や居場所の工夫ができるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みある家具類や物品を持ち込んでいただき、家族とも相談しながら、写真の掲示や好みのインテリアで居室内を快適に明るく過ごせられるようなレイアウト作りに協力をいただき、居心地よいお部屋となり過ごせるような工夫や配慮に努めている。	居室はエアコンとベッド・洗面台が備え付けである。タンスや寝具・遺影・家族の写真・ぬいぐるみなど、使い慣れた物が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ内、浴室や階段に手すりを設置したり、居室前には個別の表札を設置したり、トイレや浴室にも場所がわかる貼紙をしていることで、認識理解していただき、自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない